

# 同門会 会報

第 14 号

令和 3 年 12 月

長崎大学医学部眼科学教室同門会




## 目次

会長挨拶	松永 伸彦	1
混乱の予感	北岡 隆	2
令和元年 長崎大学眼科同門会 収支報告		4
令和2年 長崎大学眼科同門会総会 書面決議について		7
物故会員		8
物故会員の先生を偲んで		
雨宮次生先生を偲んで	北岡 隆	10
雨宮先生を偲んで		
～雨宮先生、お世話になりました～	三島 一晃	13
故 岩切 孔 先生の思い出	三島恵一郎	16
Good Bye 佐久ちゃん		
～佐久間正喜先生を偲んで～	三島 一晃	18
医局よりお知らせ		22
新入局員紹介		24
総会のお知らせ		27
編集後記	麻生 順子	28



## 会長挨拶

### 長崎大学眼科同門会 会長 松永 伸彦



初春とはいえ厳しい寒さが続いておりますが、会員の先生方におかれましてはご健勝にお過ごしのことと存じます。

昨年の会報で来年こそは皆様とお会いできると述べさせていただきましたが、結局令和3年の同門会総会も新型コロナ感染のため中止となってしまいました。昨年8月コロナ禍でも無事東京オリンピックが開催された後、11月には感染者数も激減してきたため、これで何とか落ち着くのかと思いきや、年末から新変異株「オミクロン株」の感染拡大で1月末現在1日の感染者数が4万人を超え、全国34都道府県が蔓延防止等重点措置の適応となってしまいました。この新種株は感染力こそ強いが重症化は少ないとの特徴があるようですが、爆発的な感染拡大が続いており、長崎大学病院・みなとメディカルセンター・長崎医療センターといった基幹病院も外来や入院制限が出されています。

そんな中、新聞で今年の医師国家試験に関して、コロナ感染した受験者は受験できないとの記事が記載されていました。早速厚生労働省のホームページで確認したところ厚生労働省医政局の通知で、①コロナ感染症と診断され入院中・宿泊中または自宅療養中の受験者は受験を認めない。②濃厚接触者はPCR検査陰性で当日無症状であること。③受験当日37.5度以上あった場合、迅速抗原検査を行い陽性となった場合は受験を認めないと記載されていました。これは歯科医師・看護師等すべての医療系受験者にも適用されているとのこと。更に昨年同様、追加試験は実施しないとのことでした。国会で野党がこの点を追求したところ、厚生労働省は「国家試験は1年がかりで作っている。本試験と同じ質を担保した追試試験用の問題を短期間に作成するのが困難」との返答でした。大学入試共通テストでは追加試験が認められているのに、厚生労働省はこのような事態を予測できなかったのでしょうか。何時、どこで、誰が感染してもおかしくない状況で、受験者の皆さんは不安を抱えていることと思いますが、何とか無事に受験できることを祈るばかりです。また我々医療従事者も感染または濃厚接触者となれば、医療活動に重大な支障を来すこととなりますので、もうしばらくは厳重な感染予防対策が必要と思われれます。

来年のことも全く想像できない中、なんだか愚痴めいた文章になり申し訳ありませんが、今後の同門会活動について、これからも皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いします。

## 混乱の予感

長崎大学眼科学教室 教授 北岡 隆

年が明けコロナ流行の第6波が来たようです。今年も困難の多い年になりそうな予感がいたします。そんな中、眼科学会から専門医制度についての連絡がとうとう来ました。

私見ですが、専門医制度とはもともとアカデミア主体でプロフェッショナルオートノミーを基盤とするもののはずです。眼科学会では学会が率先して他科に誇れる内容の専門医制度を確立してきました。しかし今回の新専門医制度のシステムは、「専門医制度を運用する学会が乱立して認定基準が統一されておらず、専門医として有すべき能力について医師と国民との間に捉え方のギャップがあり、現在の専門医制度は国民にとって分かりやすい仕組みになっていない」という厚生労働省の意向に沿って、厚労省自らが設立した日本専門医機構によってできた仕組みで、ここで言われる学会の乱立は主に内科系の学会で、眼科学会では以前から大学医局の定員を定め、初期2年のうち、1年は必ず大学で研修する必要があると定めるなど、きっちりしたシステムで運用されてきました。しかし日本専門医機構による専門医認定しか認めないという厚労省のお達しではどうしようもありません。移行期間が設けられておりましたが、早く日本専門医機構の専門医（以下“機構専門医”）に移行しようとした科やできる限り遅く移行しようとする科などさまざまでした。ちょうどこの時期に専門医制度委員を拝命しており、混乱の最中を見てまいりました。詳細な報告を眼科学会事務局から受けてはありましたが、それでも混乱し、いくら聞いてもよくわからない状態でした。いまだに専門医機構自体、後期研修（専門医の登録）を7月に行うと言いながら毎年10月、11月にずれ込んでいつ登録が始まるかわからない状況です。

2021年の専門医試験までは、合格すると眼科学会が認定した専門医（以下“学会専門医”）でしたが、2022年の専門医試験からいよいよ“機構専門医”が誕生することになります。これを機に眼科学会全体で“学会専門医”から“機構専門医”に移行する準備に入ることになりました。“機構専門医”となるためには機構が認定した講習等を受ける必要があるため、2022年10月に全員最後の5年間の“学会専門医”を認定され、この5年間の間に点数を貯めるなど条件をクリアすることで2027年10月から晴れて“機構専門医”になります。ただし2022年に新たに専門医試験を受ける眼科医は2022年10月から“機構専門医”となります。



ほとんどの先生は 2022 年 10 月の時点では専門医更新の途中になると思いますが、それまでに通常であれば 5 年間に必要な点数の按配分を集めて 2022 年から 5 年間の最後の“学会専門医”に移行することで、全体がスムーズに移行できるというものです。私は留学等の休止期間があり、2021 年 4 月から新たに 5 年間の“学会専門医”のスタートを切っていますが、2022 年の 10 月までの 1 年半の間に 30 点（100 点 × 1.5 年/5 年 = 30 点）集めれば 2022 年 10 月から 2027 年 10 月までの 5 年間“学会専門医”を認められます。そして 2027 年 10 月から“機構専門医”に移行するというものです。

毎年少しずつ“機構専門医”に移行するという案もありましたが、事務局の負担が大きいということで、一斉移行となりました。またどのような学会・講習会が専門医のための点数が集められるものになるのか、共通講習（安全、感染、、、等）がどうなるのか不透明な点が多々あります。

同門の先生方におかれましてはよくわからず大変だと思いますが、できる限り理解いただけるように大学医局からも発信していきたいと思っています。コロナの蔓延もあり、混乱は避けられませんが、よろしくお願いします。





## 令和元年 長崎大学眼科同門会 収支報告

(2019年1月1日～2019年12月31日まで)

収入の部		
科目	金額 (円)	摘要
年会費	645,000	2019年:126名×5,000円 2018年: 2名×5,000円 2017年: 1名×5,000円
寄付	20,000	
預金利息	12	
懇親会会費	340,000	34名×10,000円
懇親会後二次会会費	29,000	
当期収入合計 (A)	1,034,012	
前期繰越金	1,156,382	
収入合計 (B)	2,190,394	
支出の部		
科目	金額 (円)	摘要
印刷費	466,510	
通信費	43,479	
弔慰費	48,157	
賞与	100,000	
諸手当	50,000	
総会・懇親会・二次会費	405,333	
雑費	328	
当期支出合計(C)	1,113,807	
当期収支差額(A-C)	-79,795	
次期繰越金(B-C)	1,076,587	

## 内訳表

収入の部			
科目	金額 (円)	内訳	
年会費	645,000	2019年:126名×5,000円	630,000
		2018年: 2名×5,000円	10,000
		2017年: 1名×5,000円	5,000
寄付	20,000	2名	20,000
預金利息	12	普通預金利息	12
懇親会会費	340,000	34名×10,000円	340,000
懇親会後二次会会費	29,000		29,000
支出の部			
科目	金額 (円)	内訳	
印刷費	466,510	1. 振込依頼書印刷代 2件	83,160
		2. 会報第12号印刷代	383,350
通信費	43,479	1. 切手代	20,500
		2. 葉書代	8,533
		3. レターパック代	1,440
		4. 送料 (air mail)	1,330
		5. 送料 (加付DM便)	11,676
弔慰費	48,157	本多繁昭先生 弔電	3,607
		本多繁昭先生 供花	19,440
		原潤一郎先生 弔電	3,510
		原潤一郎先生 供花	21,600
賞与	100,000	米田愛先生 臨床研究奨励賞	100,000
諸手当	50,000	総会受付係 2名×10,000円	20,000
		事務費 (2019年)	30,000
懇親会・二次会会費	405,333	ホテルニュー長崎 飲食代 (懇親会)	357,333
		〃 (二次会)	48,000
雑費	328	2. 振込手数料 2件	328

## 監査報告書

長崎大学医学部眼科学教室同門会の2019年1月1日より2019年12月31日までの  
収支報告書に付き、監査の結果が適正なものであると認めます。

令和三年 9月17日

長崎大学医学部眼科学教室同門会

監事

松屋直樹



監事

神村博子





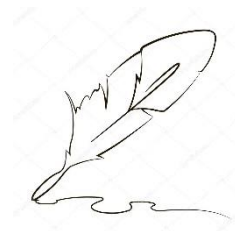


## 令和 2 年 長崎大学眼科同門会総会 書面決議について

令和 2 年の長崎大学眼科同門会総会・懇親会は開催中止となりましたので、  
会員各位へ総会資料を送付し、書面決議を行うことといたしました。

170 通郵送し 89 通返信あり、過半数を満たしました。

ご協力ありがとうございました。



## 物故会員

氏名	出身大学	卒業年	ご逝去日
雨宮次生 先生	京大	昭和 38	R2.3.15
岩切 孔 先生	鹿児島医専	昭和 26	R2.10
佐久間正喜 先生	長崎大	昭和 63	R3.1.15

ご逝去されました会員の先生方を偲んで、次頁より追悼文を掲載させていただきました。  
ご逝去を悼み、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。





## 物故会員の先生を偲んで



### 雨宮次生先生 追悼



【学歴および職歴】	
昭和 38 年 3 月	京都大学医学部卒
昭和 43 年 3 月	京都大学大学院医学研究科博士課程（眼科学）修了 医学博士
昭和 43 年 4 月	京都大学医学部助手
(昭和 45 年 10 月 - 昭和 47 年 9 月)	同 休職
昭和 45 年 4 月 - 昭和 47 年 9 月	米国エール大学医学部眼科学教室リサーチ・アソシエイト（研究員）
昭和 48 年 9 月	京都大学講師
昭和 51 年 3 月	京都大学助教授
昭和 62 年 12 月	長崎大学医学部眼科学教室教授
平成 6 年 4 月 - 平成 14 年 3 月	長崎大学医学部附属病院材料部長 併任
平成 14 年 4 月 - 平成 15 年 3 月	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科眼科・視覚科学 教授

## 雨宮次生先生を偲んで

北岡 隆

雨宮次生長崎大学名誉教授がお亡くなりになりました。

コロナ禍の最中でもあり、長らくお会いできないままのことでした。

雨宮先生はまさしく私の師でありました。私の人生の様々な局面で常に雨宮先生がいらっしゃる気がいたします。

初めてお会いしたのは学生時代のポリクリでした。今でこそ医学部の四年生後半からポリクリが始まり約2年足らずに渡り臨床実習が続きますが、その当時眼科のポリクリは週前半の月火水3日間を一つの班がまわり、後半の木金土3日間を次の班がまわるという短期間のものでした。午前中が外来で、初診患者の問診を取り、その後その日担当の教授・助教授・講師に問診をチェックしていただき、患者の診察を一緒に見学させていただくというものでした。月曜日、水曜日が雨宮次生助教授、火曜日、木曜日が塚原勇教授、金曜日が本田孔土講師のご担当でした。当時の京都大学のポリクリ生の間での眼科ポリクリの評判は（失礼な話ですが）週前半が「ハズレ」、週後半が「アタリ」というものでした。当時私を含めた多くの学生にとっては「勉強になる・ならない」よりは緩く過ごせる怒られないポリクリの評判が良かったのです。私のポリクリ班は前半組で、勉強していない私にとって雨宮先生の質問に的確に答えられるはずもなく、散々なものでした。

雨宮先生の診察を、側視鏡を使い細隙灯所見を見せていただき、「何が見える」と質問されました。何も答えられずにいると「みたままを言えば良いんだ」と言われ、「茶色い虹彩が見えます」と答えるとじろっと睨まれ「もういい!」とおっしゃいました。関西弁でないカラッとした標準語で言われ、落ち込んだ記憶があります。今になって思うと「角膜は清明で平滑、前房深度は正常深度で清明です。虹彩紋理に異常はありません。対光反射は迅速かつ完全です」といった回答を期待しておられたのだと思います。ポリクリで落ち込みはいたしました。颯爽とした雨宮先生の佇まいに憧れを感じたことも事実でした。同学年でも眼科のポリクリといえば雨宮先生のポリクリが印象に残っているという評判がほとんどでした。まさかアルバム写真撮影の時点で眼科に入局することを考えていなかったのですが、ポリクリ班全員の意見で、卒業アルバムの恩師との写真は、雨宮先生と一緒に撮っていただきました。

当時は卒業後すぐに入局科を選択するシステムでしたが、眼科を選択したのは同学年で私一人でした。私の実家は奈良の吉野で「内科・小児科・産婦人科」を標榜した開業医でしたが、

縁のない眼科を選んだのは雨宮先生の颯爽とした立ち振舞に憧れをもったことが大きかったと思います。

研修が始まり外来で紹介状の返事を書くことも研修医の大事な仕事でしたが、まともにビジネス文書を書いたことのない未熟者の私に返事の添削をしっかりとしてくださいました。1つの返事を書くのに3回～4回書き直すのは普通のこと、当時はワープロなどなくすべて手書きで、今から思い起こすとよく何度も添削していただけたものだとして反省いたします。私の最初の学会発表は京大眼科同窓会学会でしたが、小眼球に伴う網膜剥離についてで、雨宮先生からテーマを頂きました。雨宮先生からいろいろとご指導いただきましたが、雨宮先生と不出来な私の間で直接ご指導いただいた千原悦夫先生(元京大眼科准教授で現在京都府宇治市にてご開業。緑内障学会の第23回須田記念講演をご担当)におかけしたご苦勞を思うと赤面のいたりです。またこの発表は両先生のご指導ですぐさま論文にすることができました。



京都大学時代 後列中央 雨宮次生先生  
前列左 北岡

その後私自身はカリフォルニア大学デービス校に留学し、帰国する時に雨宮先生にご高配いただき長崎大学に赴任することとなりました。先輩方から雨宮先生は毅然としておられ、こわい印象もあるかもしれないが、あんなにちゃんと叱ってくれる先生はいないし、とても面倒見が良いから大丈夫だとおっしゃっていただきましたが、私自身憧れを感じていた雨宮先生ですし、直接指導をしていただいていたので、心配はありませんでした。唯一の心配は長崎に馴染めるかどうかでしたが、当時医局長であった高義則先生、大学院生であった三島一晃先生、今村直樹先生、小川月彦先生らに暖かく迎えられ、また眼科医会では高則雄先生、金光二郎先生、三島恵一郎先生、柿本末人先生らに大学と医会の間に入っただき問題なく馴染んで行きました。その後も白井彰先生、村田稔先生、松永伸彦先生と歴代の眼科医会会長をはじめ眼科医会の先生方に大変お世話になっております。

私より先に大平明弘先生が助教授（現准教授）で、同時期に斉藤了一先生と斉藤あゆみ先生が助手（現助教）で、一緒に仕事を開始しました。大平先生には研究面でアドバイスをいただき、高義則先生らと超音波白内障手術や硝子体手術と一緒に始め、さらに当時国立長崎中央病院にいらっしやうた山之内宏一先生に硝子体手術でいろいろとアドバイスをいただいたことが思い出されます。

その頃雨宮先生が私達に用事がある場合は、机の上に秘書さんから「一寸 雨」とだけ書かれたメモが机の上に置いてあることが常でした。外来から戻り、そのメモを見て「ドキッ」としながら教授室に伺いました。いろいろとアドバイスをうけたり、時にはお叱りを受けたりしたことが思い出されます。

入退院を繰り返されているとお聞きしていましたが、ご病気のお見舞いに行ってもよいか迷っているうちにコロナ騒動になってしまいお会いできないままでした。

私自身定年が近づいていますが、雨宮先生は定年が近づいても全く馬力を落とすことなく全力で臨床・研究・教育に取り組んで来られ、定年の前年の2年間に教養教育を依頼されたときも、「眼科の講義は自分の専門分野なので、ある意味片手間でもできるが、教養教育は自分自身の教養が試されるのだ」とおっしゃって動物を含めた眼の進化を勉強されていた姿が印象的でした。

いつもご指導いただいていた雨宮先生がお亡くなりになった喪失感は大いですが、教えていただいた様々なことを糧に私も残りの任期をしっかりと全うしていきたいと思っています。

長崎での古希のお祝いでお会いしたのが最後になってしまいました。人生の師というべき雨宮先生の偉大さを偲びつつ、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

## 雨宮先生を偲んで

～雨宮先生、お世話になりました～

三島眼科医院 三島一晃

昭和 62 年に雨宮次生先生が長崎大学眼科学教室主任教授に着任されました。私が雨宮先生にお会いしたのは、昭和 63 年 11 月頃で、医師国家試験の願書を提出し、卒業が決まってからだったと思います。それまでは、眼科以外に進むことを考えていて、他科への入局を親と話し合っていました。親父は自分の興味のある所に行けばいいと言ってくれていたのですが、祖母の「あんたね。お父さんの築き上げてきたものばドブに捨てるかね。もったいなかない。ここは運命と思うて諦めなさい。」という鶴の一声で眼科への道に一気に傾いてしまったのです。さらに、初めて雨宮先生にお会いしたときにも、雨宮先生もお父様が眼科医で進路について葛藤があったとのお話をお聞きし、「やはりこれは運命なんだなあ。」と思い、眼科学を専攻することを決めたのでした。初めてお会いした時の雨宮先生は、私と体形は対称的で非常に背が高く、スリムでシャキッとされていて威風堂々とした感じでした。非常に厳しい先生という噂は耳にしていたので、いきなり怒られるのかと多少警戒もしていましたが、そのようなことはなく、先生の生い立ちや大学時代、入局時代、新人の頃などの話をしてくださいました。また、入局してからの plan などについて説明を受けました。今でも、強く覚えているのは「三島君、精神的なものは別にして勉強しすぎて死んだ人間はおりませんわ。医者勉強が一番大事ですわ。」と言われたことです。基本、あまり勉強することが好きではなかったので、「どれだけさせられるんだろう。ひょっとして、俺が第 1 号になったりして…」などと考えたりしながら、元久留米大学眼科学教授の吉岡久春先生に相談したところ、「君は厳しい環境に身を置いた方がいいよ。」と言われ雨宮眼科教室への入局を決めたのでした。

私は学生時代には空手部に身を置いておきながらかなりの小心者で、小学生の頃の Trauma が先生からは「怒られる！」というイメージが強く、緊張の毎日でした。特に当時の大学病院というものは山崎豊子の“白い巨塔”にあるように主任教授というのは絶対的な存在でしたから粗相があってはいけない、よそ者だから注意せねば。と自分なりに特に気を遣っていました。ですから、教授回診の時、教授と私のやり取りを見て、殿と家来だとよく言われたものです。しかし、雨宮先生はよそ者という事で差別は全くなく、叱られることも多々ありましたが、熱心に御指導いただきました。

幼少の頃より国語が苦手で、高校の頃などは現代国語の担任の先生から「三島、おまえの国語はヤバいぞ。卒業できるのか？」などと脅されるぐらいで、特に作文などは吐き気を感じるほど大嫌いでした。元々、筆不精で手紙を書く習慣はあまりなく、紹介状や連絡状などというものは社会人になって初めて書きましたが、外来における紹介状、連絡状はすべて雨宮先生がチェックされ、毎日書き直しをさせられました。おかげさまで連絡状、紹介状の内容でクレームをもらったことはなかったように思います。

雨宮先生との思い出は数え切れないほどたくさんありますが、臨床と研究について、特に研究に関する思い出が多くあります。私は医者になって 4 年目に大学院に進むことを決めました。当時の大学院の試験は午前中に英語とドイツ語があり、午後から面接でした。私と今村先生とブットー先生と一緒に受験しました。ブットー先生は留学生だったので別メニューでしたが、大学院の試験を受けるにあたり、私と今村先生は英語とドイツ語の個別指導（特訓？）が週に 1 回ありまして、雨宮先生が用意した論文を訳してくるといったものでした。英語論文は抄読会もあったので何とかできましたが、問題はドイツ語です。文法すら忘れてしまい、活用が英語と全く異なるのですからそれは大変でした。我々にとってはまさに“Mission Impossible”でした。しかし、雨宮先生も我々ができるとは思ってはいなかったようで、文法から丁寧に教えてくださいました。中でも、私が訳せずに苦労していると、「う～ん。三島君、これは分離動詞なんですよ。だから前置詞が文の後ろについているんだよ。」“えっ！分離動詞？遠い昔に聞いた言葉。そう言えば、そんなあったな。なんやったっけ？”と今村先生と顔を突き合わせながら個別指導を受けていました。私があまり出来が良くなかったせいか、私の後輩は新入医局員時代に最初の抄読会の準備のために個別指導を受けており、「先輩、今日はジオスの日ですから邪魔しないで下さいよ。」と後輩から注意されていたものです。そのくらい全医局員に対し、雨宮先生は外国語には熱心に指導しておられました。

大学院に入ってから電子顕微鏡を使った研究をすることになったのですが、ガラスナイフの作り方、標本作成、トルイジンブルー染色、超薄切片の作り方、写真の撮り方、現像の仕方などいろいろ教えて頂きました。しかも、日ごろは病棟や外来などで時間がないものですから、土曜日の夕方に時間を作っていただき嫌な顔一つなさらずご指導いただきました。実験をされているときの教授はイキイキとされていてとても楽しそうでした。ただ、研究とはご承知の様に思い通りにはいかず、大変苦労したのを覚えています。

大学院に行っている間も、日本眼科学会、ARVO、中部眼科学会、臨床眼科学会への発表は必須で、その他にも諸々学会発表の指示がありましたので、それに伴って原著も書かないといけませんでしたから、それを見ていた後輩が私の事を“原著 machine”と揶揄しておりました。



毎日の臨床の仕事を終えて、医局に戻ると、「要あり。雨」のメモが置いてあるのです。それで、教授室に行くともた色々指示が出て仕事が増えていくのです。ですから、夏休み明けなど長期間医局を離れると「要あり。雨」のメモが山積みになっていることが多かったので私は夏休みなどはゆっくり休めなかった記憶があります。でも、今思い返してみれば愛の鞭で、若かったからできたことと思っています。

雨宮先生が就任してから初めて私がアメリカに留学させていただきました。どの程度、医局に還元できたかは定かではありませんが、雨宮先生のおかげで今の自分があると思っています。たくさんの経験をさせて頂きました。今後も先生からの教えを守って医学の道を究めていきたいと思います。本当にありがとうございました。

ご冥福をお祈りいたします。



左より Kria Lidia 先生、三島、雨宮次生先生、山之内宏一先生



## 岩切 孔 先生 追悼



### 故 岩切 孔 先生の思い出

三島恵一郎

岩崎孔先生は昭和 26 年鹿児島医学専門学校をご卒業後に故廣瀬金之助教授の下で研究に専念しておられました。

私が初めてお会いしたのは、昭和 34 年（1951）春でしたが、処は、昔の被爆したコンクリート二階建て眼科棟で 1 階の医局に一人静かに論文の校正に熱中しておられ、簡単な挨拶と自己紹介し部屋を出ましたが、その時のお姿が脳裏に残っています。

その頃、眼科医局には金ちゃんチームと呼ばれていた野球チームがあり、医局対抗戦や当時、年一度は九州山口眼科集談会（現在の九州眼科学会の前身）があり、各大学が主催する県で、午後は参加大学との間で野球の交流試合があっていました。

故廣瀬金之助教授は野球が好きで、時々、岩切先生と交代してセカンドを守っておられました。岩切先生は温厚な方で交代後はコーチとして大声で発破をかけて応援をして頂きました。

最近のご消息は存じませんでしたが、訃報を知り、昔を思い出して懐かしくなりました。また、寂しくなりましたが、心よりご冥福をお祈りいたします。





(写真は所謂、金ちゃんチームです。“欽ちゃんチーム”ではありません。)

(写真説明)

二段目左から三島、高野先生、吉岡先生、廣瀬金之助教授、阿部先生、今村先生、  
一段目左から金光先生、小田先生、溝口先生、青野先生、廣瀬泉先生、岩切先生、村尾先生

\* 野球帽のマークに注目。Ⓢになってます。





## 佐久間 正喜 先生 追悼



### Good Bye 佐久ちゃん

#### ～佐久間正喜先生を偲んで～

三島眼科医院 三島一晃

私が長崎大学医学部眼科学教室に入局したのは、平成元年 6 月 1 日のことでした。その時の同期入局者は、佐久間正喜先生、中村浩平先生、今村直樹先生、吉岡直美先生と私の計 5 名でした。雨宮次生教授が赴任されてから、3 年目の年で雨宮教授が意気揚々とされていた頃で、5 人の入局者があったので雨宮先生も大変喜んでおられたように思います。ただ、この 5 人中で、中村、今村、三島の 3 人はいわゆる Jr. で本当に眼科に興味があって入局したか否かは不明でした。しかし、佐久間先生は「目の宇宙を探求したい。」と強い意志をもって入局されたのでした。「国立大学出身の先生はやはり言う事が違うなあ。俺にはよう意味が分からん。」と佐久間先生に話したことがあります。

佐久間先生は、昭和 57 年に長崎大学に入学され、平成元年に長大眼科医局に入局されたのですが、我々とは違う経歴の持ち主でした。実は、彼は、年齢は秋山和人先生や山之内宏一先生と同じ年で、愛媛県出身です。愛媛の有名進学校、愛光学園を卒業後、他学を卒業されたのち、NEC に就職。研修でドイツに行かれた時、(彼が言うには)メルヘン街道を一人で散策している時に医学の道を志すことに目覚め、急遽帰国したとのことでした。それから、大学受験をやり直して、長崎大学に入学されたのです。「メルヘン街道と医学の道？ほんまか？どう結びつくのよ。」と言うと、いつもの口調で、「本当です。」と一言。まあ、ちょっとユニークな先生でした。



佐久間先生と私は年が10歳ほど離れていましたが、仲良くさせて頂いてました。私もどちらかと言うと、図々しい方なので、「佐久ちゃん、あんたさ、鳳啓介に似てるって言われん？」と言うと、「なんてこと言うんですか！そんなことは言われてませんよ！」と鳳啓介口調で返事が帰ってくるのです。いつもこんな感じでいじりながらうまくやっていました。とにかく、真面目なヒトで私と同様仕事が遅くて、病棟に最後までいるのは私達二人でした。研修医1年目には指導医が付く事になっていて、佐久間先生は溝口尚則先生、私は松永伸彦先生でした。お二人とも親切に教えて頂けるのですが、お忙しいため、なかなか相談に乗ってもらえず、見つけては病棟で捕まえてしつこく質問する彼の様はまるで芸能レポーターのようでした。

とにかく、一日も早く技術を習得したいと全研修医切磋琢磨していたある日、佐久間先生が自分の患者に結膜下注射をするというので見学に行きました。彼は全く動揺することもなく、ブスッと結膜下注射をしたのです。患者は「うっ。痛か！」と言うと、「ここは我慢です。辛抱。」と言って処置を終わりました。「先生、この注射は痛かですね。」と言うと、彼は「痛いから効くんです。」と平然な顔をして鳳啓介口調で言っていました。「佐久ちゃん、大したもんやね。全く動揺もせんと。ところでさ、点眼麻酔って何をどれくらい使ったの？」と尋ねたら、「点眼麻酔？そんなものはしませんよ。しないといけなかったのかなあ。」「んっ・・・？点眼麻酔を絶対しないといけないかはよくわからんけど、あれなら痛かろうね。」と私が言うと、「そうですか。次からします。」との返事でした。伊達に私より10年長く生きてないんだなとその時は感じたのでした。



後列左より：中村浩平先生、佐久間先生  
前列左より：三島、今村直樹先生

他に世代を感じたことが一つありました。入局した翌年の年賀状にある先輩から年賀状が来たのですが、住所と宛名および差出人の名前が書いてあるだけで裏は何も書いてありませんでした。「これはいったい何？何の意味だろう？俺らがまだまだ素人と言う意味か？純粹という意味か？」などと色々詮索しましたが分からず、私だけかと思って、年が明けて、研修医全員に尋ねたところ、全員裏は白紙だったとのこと。「不気味やね。なんの意味があるとやろうか？」とみんなで考えていたら、佐久間先生が「(鳳啓介口調で)僕はね、炙り出しで書いたんだろうと思って、コンロで温めていたら、燃えてしまいました。」と言うのです。「えーっ！炙り出し。久しぶりに聞いた言葉やね。小学校の理科の実験以来たい。リングか？ミカンか？いずれにしても炙り出しなら見りゃ分らんかね？」と言うと、彼曰く、「特殊インクを使ったのかもしれないね。でも、燃えちゃいましたから。」「あのさあ。スパイじゃなかつちやけん。わざわざ、研修医相手にそんな手の込んだことするか？」「そこは分かりませんよ。とにかく、その先輩に真意を聞いてみましょう。」という事になって、数日後、その先輩に「あの、〇〇先生。年賀状ありがとうございました。ただ、裏に何も書いてなかったのですが、あれはどういう意味なのでしょうかね？」と尋ねると、「ああ、ごめんなさいね。年の瀬が迫っていて、慌てて出したから裏に書くのを忘れちゃったのよ。」「……………。そうだったんですね。良かった。」と二人で肩をなでおろしたのでした。

彼はこう思うとまっしぐらな性格で、手を抜くことをせず、完全にやり遂げないと気が済まない人でした。研修医5人で食事をしようと言って、彼が予約を入れてくれたのに、仕事が終わらないと言って、彼だけ来ないというのは珍しくありませんでした。日々、懸命に仕事をして突っ走っていた彼ですが、平成2年4月に諫早総合病院に転勤になり、そこで渡部富美雄先生と出会い、色々修行を積んでいきました。渡部先生との関係もうまくいっていたようで、渡部先生と佐久間先生はどう見ても共通点がなく、どうやってもうまくやっていたかは知りませんがとにかく充実した日々を送っていたそうです。渡部先生が合わせてくださったのか、彼がうまく合わせていたのか、いずれにしても彼曰く毎日が新鮮だと言っていました。途中、渡部先生が開業され、高野潤之輔先生に交代しましたが、やはり順調にやっていたようです。しかし、両親がご高齢という事もあって、渡部先生が開業されたのを契機にその翌年、愛媛に帰ることになるのです。



精霊流しにて

左より：佐久間先生、三島、溝口先生

彼が愛媛大学医局に入局した時は、医局内が随分と大変だったらしいのですが、そのあたりはさすが佐久間先生、物怖じすることなく、平然と過ごしていたようです。とにかく、Going my way の人でした。ただ、周りの人に迷惑をかけることはなく、耳を傾けていたところはさすがでした。愛媛に戻られて、数年後開業されました。その時に、一度学会ついでに高先生と会いに行ったことがあります。少し、白髪と顔のしわが増えてはいましたが、相変わらずの鳳啓介口調で非常に元気でした。「三島先生、僕はね。先生が出世するのを楽しみにしてるんだよ。先生ならきっとできるさ。若いうちに勉強して頑張ってね。僕は今、近所の先生たちと“藪医者会”というのを作ってみんなで細々と勉強してるんだ。」という言葉聞いたのが印象的でしたが、それが彼と直接会ってした最後の会話でした。

長崎県眼科医会報や同門会誌に私が寄稿すると、それを読んでくれて応援の手紙をくれていましたが、ここ2、3年返事がなく、心配していたところに佐久間先生の訃報の知らせが舞い込んできたのです。彼が亡くなったのは令和3年1月15日の事でした。約2カ月遅れで情報が入って来ました。僕は友人として何もしてあげることができませんでした。それが残念でなりません。きっと、晩年は大変だったのでしょう。“よう、頑張ったな。Good Bye, 佐久ちゃん。”彼ならきっと許してくれるでしょう。いままで色々ありがとう。私ももう少し頑張ってみますよ。佐久間先生、どうぞ安らかに眠りください。

この度、佐久間先生の訃報に際し、愛媛県眼科医会で長崎大学出身の真田洋先生、愛媛大学で佐久間先生の後輩にあられる高山明彦先生、愛媛県立中央病院眼科 ORT の岡部志穂様には情報提供いただきありがとうございました。この場を借りて感謝申し上げます。



精霊流しにて

左より：佐久間先生、三島



## 医局よりお知らせ

令和2年11月以降の医局内の異動等は下記のとおりです。

異 動			
異動(採用)日	氏名	旧 勤務先	→ 新 勤務先
R3.4.1	原田 康平	京都府立(国内留学)	→ 長崎大学
R3.7.1	宮城 清弦	岐阜薬科大(国内留学)	→ 長崎大学
R3.7.1	大槻 早紀	長崎大学	→ 長崎医療センター
R3.7.1	山口真利奈	長崎大学	→ 日赤長崎原爆病院
R3.7.1	吉村 遥香	長崎大学	→ 佐世保市総合医療センター
R3.7.16	岡 朱莉	長崎医療センター	→ 佐世保市総合医療センター
R3.7.16	村上 隆哉	佐世保市総合医療センター	→ 長崎医療センター
R3.8.1	黒部 彩那	日赤長崎原爆病院	→ 長崎大学
R3.9.1	松本 牧子	長崎大学(退職)	→ 虹が丘病院
R3.11.1	伊藤 理佐	育休	→ 長崎大学
新入局員			
入局日	氏名	出身大学	卒業年
R3.4.1	大石 真秀	名古屋大学	H18.3
R3.4.1	高尾 美貴	長崎大学	H31.3
R3.4.1	高風那々子	福岡大学	H31.3
R3.4.1	千代川聖道	長崎大学	H31.3
R3.4.1	津田 恭平	佐賀大学	H31.3

### ～関連病院スタッフ一覧～ (12月現在)

日赤長崎原爆病院	栗原潤子、米田 愛、大石真秀、山口真利奈
重工記念長崎病院	三浦陽子
井上病院	林田裕彦
長崎医療センター	松永伸吾、時村源一郎、村上隆哉、(丸田知央子)
佐世保市総合医療センター	隈上武志、岸川泰宏、久保田 伸、岡 朱莉、(田代紘子)
五島中央病院	土井祐介
上五島病院	遠藤未紗 (育休中)



令和3年12月現在の大学病院外来予定

(※は、非常勤です)

	午前	午後
月	<p><b>新患</b> (北岡、山田<sup>香</sup>、植木、井上、河野、佐藤、中尾、原田<sup>康</sup>、平田、伊藤、高尾/高風/千代川/津田) うち6-7名</p> <p><b>黄斑</b> (築城、大石、前川)</p>	<p><b>造影</b> (FA/IA : 大石、栗原<sup>※</sup>、前川) (FA : 原田<sup>康</sup>、宮城、伊藤、高尾/高風/千代川/津田) うち3名</p> <p><b>コンタクト</b> (井上/植木)</p> <p><b>未熟児</b> (中尾、町田)</p>
火	<p><b>緑内障・一般再診</b> (築城、植木、河野、佐藤、原田<sup>康</sup>、町田、伊藤、黒部) うち6-7名 (高<sup>※</sup> : 第四火曜日のみ)</p> <p><b>ぶどう膜</b> (原田<sup>史</sup>、大野<sup>※</sup>、山田<sup>香</sup>、平田)</p>	<p><b>硝子体注射</b> (原田<sup>史</sup>/黒部/平田/伊藤、高尾/高風/千代川/津田)</p> <p><b>手術</b></p>
水	<p><b>新患</b> (北岡、築城、大石、草野、原田<sup>史</sup>、佐藤、松隈<sup>※</sup>、高尾/高風/千代川/津田) うち6-8名</p> <p><b>角膜</b> (今村<sup>※</sup>、上松、植木/井上/原田<sup>康</sup>)</p>	<p><b>硝子体注射</b> (原田<sup>史</sup>、原田<sup>康</sup>、黒部、佐藤) うち2名</p> <p><b>ロービジョン</b> (前川)</p> <p><b>義眼</b> (上松 : 第四水曜日のみ)</p> <p><b>PDT</b> (大石、原田<sup>史</sup>)</p>
木	<p><b>糖尿病・循環・一般再診</b> (築城、前川、井上、山田<sup>香</sup>、佐藤、原田<sup>康</sup>、宮城、平田、伊藤、町田、木下<sup>※</sup>、松隈<sup>※</sup>、高尾/高風/千代川/津田) うち9-11名</p> <p><b>未熟児</b> (原田<sup>史</sup>、中尾)</p> <p><b>眼瞼</b> (麻生<sup>※</sup>、原田<sup>史</sup>/山田<sup>香</sup> : 第三木曜日のみ)</p>	<p><b>レーザー</b> (原田<sup>史</sup>/河野/伊藤)</p> <p><b>涙道</b> (草野)</p> <p><b>斜視・弱視</b> (上松、原田<sup>史</sup>、中尾)</p> <p><b>一般</b> (山田<sup>義</sup><sup>※</sup> : 隔週)</p>
金	<p><b>新患</b> (植木、前川、佐藤、原田<sup>康</sup>、伊藤、黒部、木下<sup>※</sup>、松隈<sup>※</sup>、高尾/高風/千代川/津田) うち6名</p> <p><b>剥離</b> (宮城/黒部)</p> <p><b>眼窩</b> (三島<sup>※</sup>、井上、河野)</p>	<p><b>硝子体注射</b> (木下<sup>※</sup>、伊藤)</p> <p><b>手術</b></p>

新患 : 月、水、金 9 : 00 または 9 : 30 に予約 再診 (専門外来) : 予約制 (上記)

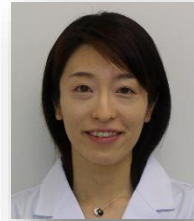
医局長 : 草野真央 病棟医長 : 井上大輔 外来医長 : 原田史織

## 新入局員紹介



おおし まほ  
大石 真秀

この度ご縁を頂き、4月に入局させて頂きました大石真秀と申します。広島大学附属福山高校卒。名古屋大学を平成18年に卒業後、トヨタ記念病院で初期臨床研修を行い、京都大学眼科学教室入局。大学病院及び関連病院（福井赤十字病院、滋賀県立総合病院、岡本記念病院）勤務後、現在は長崎原爆病院に勤務させて頂いております。大学院では、網膜ジストロフィや近視のゲノム解析を行っていました。学生時代はテニス部でよく身体を動かしていましたが、卒業後めっきり動かなくなりました。未熟で至らない点も多く、ご迷惑をお掛けする事と思いますが、微力ながら長崎の医療に貢献できればと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



たかお みき  
高尾 美貴

4月より入局させていただきました高尾美貴と申します。生粋の長崎県民で、長崎西高校で青春時代を過ごし、長崎大学を平成30年度に卒業いたしました。学生時代は中学から大学までソフトテニス部に所属していました。趣味もソフトテニスですが、最近は全くできおらず新しい趣味を探しているところです。大学卒業後は長崎医療センターで初期臨床研修を行い、学生実習や初期研修で眼科をローテートさせていただいた際に感じた眼科の奥の深さや洗練された手技に心惹かれ、この度入局させていただく運びとなりました。生まれ育った長崎県で、眼科医として一步を踏み出せたことをとても幸せに思っております。まだ入局したばかりではありますが、先生方の熱心なご指導のもと、賑やかな同期と充実した毎日を過ごさせて頂いております。1日でも早くお役に立てますよう日々精進してまいります。至らない点も多々あるかと存じますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



たかかぜ ななこ  
高風那々子

今年度より入局させていただきました、高風那々子と申します。  
このようなご挨拶をする場を設けていただき、ありがとうございます。  
私は長崎西高等学校を卒業し、1年の浪人期間を経て福岡大学に進学しました。部活(軟式テニス)と飲み会(ワインが好きです)と旅行に明け暮れ、いつの間にか6年間が終わっていて、卒後は地元の長崎に戻り、長大病院で初期研修を行いました。学生の時の眼科の第一印象は、暗い室内で色々な仕事をしていてもぐらみただいな、なんて思ったりしていました。ですが初期研修1年目の秋頃、私自身が眼科を受診した際に眼科の専門性の高さに魅力を感じ、取り急ぎ変更し眼科をローテートに組み込ませていただきました。それ以降、眼科の手術がすごく面白くて、繊細で美しく、眼科医になることを決意しました。入局してまだ数ヶ月ですが、先生方のご指導の下、少しずつわかることが増えていく日々喜びとやりがいを感じております。また新入局員の同期にも恵まれ、毎日知識を交換しながら共に頑張っています。  
まだまだ若輩者ですが、エネルギーに頑張りたいと思いますので今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



ちよかわまきみち  
千代川聖道

この度入局させていただきました千代川聖道と申します。  
生まれは岩手県、3歳で宮城県に引っ越し、10歳で千葉県、15歳で福岡県を経て長崎の地を踏ませていただきました。日本列島を南下してきましたが、長崎ほど素晴らしい土地はないと実感しております。ハウステンボスが大好きで、年間パスポート購入も視野に入れております。高校は福岡県の大牟田高校出身、平成31年長崎大学を卒業しました。部活は弓道部と軽音楽部に所属しており、Rockをこよなく愛するドラマーです。学生時代はまさか自分が眼科に入局するとは思っていませんでしたが、眼球の透明感、清廉さに心打たれ、眼科医の道を志しました。これから精一杯勉強し、励んで参りますので、これからどうぞよろしくお願い申し上げます。



4月より入局させて頂きました津田恭平と申します。

長崎市出身で青雲高校、佐賀大学を卒業後は、九州医療センターで2年間初期研修を行いました。大学ではボート部に所属し部活・飲み会・部活・飲み会・部活・飲み会・飲み方・飲み会と大変充実した大学生を送ってまいりました。体育会系で育ち、叱咤、叱咤、叱咤、叱咤される環境で過ごしてきたため、厳しくされることに耐性はありますが、褒められる方が伸びるタイプと自負しております。最近のブームはダイエットです。運動をしている時と比較し体重も10kg近く増えたので今年に入ってから一念発起し、減量にも励んでおります。無理な運動よりも続けられる食事制限！もしも、これから私が増量してきた時には、その際は叱咤いただけると幸いです。

入局後は眼科の先生方に熱心なご指導をいただき大変充実した日々を過ごさせていただいております。楽しい同期と、優しく指導熱心な先生方に恵まれ、眼科医としての第一歩を踏み出せたことを幸せに思っております。入局したばかりで、これから多々ご迷惑をおかけする事もあるかと存じますが、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



## 令和 3 年総会中止のお知らせ

### 長崎大学眼科同門会総会および懇親会

日時：2020 年 10 月 24 日（土）18 時 30 分より

場所：ホテルニュー長崎 地下 1 階 海鳳の間

### 長崎大学眼科同門会ゴルフコンペ

上記日程にて予定しておりました、総会・懇親会およびゴルフコンペですが、  
新型コロナウイルス感染拡大のため、今年も**開催中止**といたしました。

## 令和 4 年総会のご案内（予定）

### 長崎大学眼科同門会総会および懇親会

日時：2022 年 10 月 29 日（土）18 時 30 分より

場所：ホテルニュー長崎



## 編集後記

麻生 順子

“武漢, ロックダウン”というセンセーショナルなニュースから早 2 年が経ちました。その時は SARS のような感じかな、と対岸の火事を眺める気分でしたが、まさかこんなにも生活様式の変容を迫られる日々が続くとは思ってもみませんでした。

同門会総会も 2 年連続で休会せざるを得ずとても残念です。

今年の秋は開催できるように祈るしかありませんが、どうなることでしょうか。

こんな時期もあったねと笑い飛ばせる日まで、どうぞ皆様お身体大事にお過ごしくださいませ。



令和3年12月 発行

\* 長崎大学眼科同門会 会報 編集委員 \*

あそう眼科	麻生 順子
長崎大学	築城 英子

\* 長崎大学眼科同門会事務局 連絡先 \*

〒852-8501 長崎市坂本1丁目7番1号  
長崎大学病院 眼科医局 内

担当 受付 <sup>つねなり</sup>恒成由美子

E-mail: tyumi@nagasaki-u.ac.jp

TEL 095-819-7345

FAX 095-819-7347